



欄に数値またはコメントを記入

1. 建物概要						
建物名称	(仮称)ルーキーレーシングガレージ<建物-1-1>	BEE	1.3	BEEランク	B+	★★★

2. 重点項目への取組み度						
重点項目	得点*/満点		取組み度		評価	
"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進 (Global Warming)	3.5	/5			ふつつ	
"災害に強いしずおか"の形成 (Disaster)	3.0	/5			ふつつ	
"しずおかユニバーサルデザイン"の推進 (Universal Design)	3.8	/5			ふつつ	
"緑化及び自然景観"の保全・回復 (Nature)	2.0	/5			がんばろう	
※対応するCASBEEのスコア(平均)を5点満点で表示します。(スコア1.0=1点、スコア5.0=5点)			評価 凡例	よい 4 点以上	ふつつ 3 点以上	がんばろう 3 点未満

3. 重点項目についての環境配慮概要		内訳対応項目		
各項目について配慮した内容を、該当する番号(①~)を示し記述してください。				
"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進(Global Warming)		得点	3.5	
<ul style="list-style-type: none"> ■室内環境対策 (①室温制御/②昼光対策/③グレア対策/④部品・部材の耐用年数) <ul style="list-style-type: none"> ①外壁U値:0.6、床:0.6、窓システム:2.3 窓システムのSC:2.3 η:0.4 ④主要内装仕上げ材は更新間隔の長いものを採用 ④給排水配管は2種類以上にB使用、Eは不使用 ■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/⑥敷地内温熱環境の向上) <ul style="list-style-type: none"> 特に配慮なし ■エネルギー対策 (⑦建物外皮の熱負荷抑制/⑧自然エネルギー利用/⑨設備システムの高効率化/⑩効率的運用) <ul style="list-style-type: none"> ⑨BEIm=0.74 ■資源・マテリアル対策 (⑪水資源保護/⑫非再生性資源の使用量削減/⑬汚染物質含有材料の使用回避) <ul style="list-style-type: none"> ⑪自動水栓・省水型機器の採用 ⑫分別を容易にする部材の採用(LGS・OAフロア) ⑬環境負荷の少ない断熱材の採用 ■敷地外環境対策 (⑭地球温暖化への配慮/⑮温熱環境悪化の改善) <ul style="list-style-type: none"> ⑭LCCO2排出率:87% 	Q-1 2 2.1 2.1.2 ① Q-1 3 3.1 3.1.3 ② 3.2 3.2.1 ③ Q-2 2 2.2 2.2.1 ④ 2.2.2 ④ 2.2.3 ④ 2.2.4 ④ 2.2.5 ④ 2.2.6 ④	① 外皮性能 ② 昼光利用設備 ③ 昼光制御 ④ 躯体材料の耐用年数 ④ 外壁仕上げ材の補修必要間隔 ④ 主要内装仕上げ材の更新必要間隔 ④ 空調換気ダクトの更新必要間隔 ④ 空調・給排水配管の更新必要間隔 ④ 主要設備機器の更新必要間隔		
	<ul style="list-style-type: none"> ⑤ 生物環境の保全と創出 ⑥ 敷地内温熱環境の向上 		Q-3 1 3 3.2	⑤ ⑥
	<ul style="list-style-type: none"> ⑦ 建物外皮の熱負荷抑制 ⑧ 自然エネルギー利用 ⑨ 設備システムの高効率化 ⑩ モニタリング ⑩ 運用管理体制 		LR-1 1 2 3 4 4.1 4.2	⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑩
	<ul style="list-style-type: none"> ⑪ 節水 ⑪ 雨水利用システム導入の有無 ⑪ 雑排水等利用システム導入の有無 ⑫ 材料使用量の削減 ⑫ 既存建築躯体等の継続使用 ⑫ 躯体材料におけるリサイクル材の使用 ⑫ 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用 ⑫ 持続可能な森林から産出された木材 ⑫ 部材の再利用可能性向上への取組み ⑬ 有害物質を含まない材料の使用 ⑬ 消火剤 ⑬ 断熱材 ⑬ 冷媒 		LR-2 1 1.1 1.2 1.2.1 1.2.2 ⑪ 2 2.1 2.2 2.3 2.4 2.5 2.6 3 3.1 3.2 3.2.1 3.2.2 3.2.3 ⑬	⑪ ⑪ ⑪ ⑫ ⑫ ⑫ ⑫ ⑫ ⑫ ⑬ ⑬ ⑬
<ul style="list-style-type: none"> ⑭ 地球温暖化への配慮 ⑮ 温熱環境悪化の改善 		LR-3 1 2 2.2	⑭ ⑮	
"災害に強いしずおか"の形成(Disaster)		得点	3.0	
<ul style="list-style-type: none"> ■サービス性能対策 (⑯耐震・免震/⑰信頼性) <ul style="list-style-type: none"> 特に配慮なし 	Q-2 2 2.1 2.1.1 ⑯ 2.1.2 ⑯ 2.4 2.4.1 ⑰ 2.4.2 ⑰ 2.4.3 ⑰ 2.4.4 ⑰ 2.4.5 ⑰	⑯ 耐震性 ⑯ 免震・制振性能 ⑰ 空調・換気設備 ⑰ 給排水・衛生設備 ⑰ 電気設備 ⑰ 機械・配管支持方法 ⑰ 通信・情報設備		
	"しずおかユニバーサルデザイン"の推進(Universal Design)		得点	3.8
<ul style="list-style-type: none"> ■サービス性能対策 (⑱機能性・使いやすさ/⑲心理性・快適性/⑳空間のゆとり) <ul style="list-style-type: none"> 20【工場】3.9m ⑲壁長さ比率:0.16に抑え空間の自由度を高く設計 ■室外環境(敷地内)対策 (㉑地域性・アメニティへの配慮) <ul style="list-style-type: none"> 特に配慮なし 	Q-2 1 1.1 1.1.3 ⑱⑲ 3 3.1 3.1.1 ⑲ 3.1.2 ⑲ Q-3 3 3.1 ㉑	⑱⑲ ユニバーサルデザイン計画 ⑲ 階高のゆとり ⑲ 空間の形状・自由さ ㉑ 地域性への配慮、快適性の向上		
	"緑化及び自然景観"の保全・回復(Nature)		得点	2.0
<ul style="list-style-type: none"> ■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/㉒まちなみ・景観への配慮/⑥敷地内温熱環境の向上) <ul style="list-style-type: none"> 特に配慮なし ■敷地外環境対策 (⑫持続可能な森林から産出された木材/⑮温熱環境悪化の改善) <ul style="list-style-type: none"> 特に配慮なし 	Q-3 1 2 3 3.2 LR-2 2 2.5 LR-3 2 2.2	⑤ 生物環境の保全と創出 ⑥ まちなみ景観への配慮 ⑥ 敷地内温熱環境の向上 ⑫ 持続可能な森林から産出された木材 ⑮ 温熱環境悪化の改善		

CASBEE® - 建築(新築)

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v4.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	阪神ルーキーレーシングガレージ(建物-1-1)	階数	地上2F地下1F
建設地	部、616の一部、616-2の一部、617、617-2、618の一部、629	構造	S造
用途地域	市街化調整区域	平均居住人員	90 人
地域区分	5地域	年間使用時間	2,340 時間/年(想定値)
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2022年12月 予定	評価の実施日	2022年12月8日
敷地面積	4,293 m ²	作成者	阪 健吉
建築面積	2,962 m ²	確認日	
延床面積	5,074 m ²	確認者	



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.3

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

30%: ☆☆☆☆ 60%: ☆☆☆ 80%: ☆☆☆ 100%: ☆☆ 100%超: ☆

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです。

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 2.9

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.4

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.3

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.2

LR のスコア = 3.5

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.7

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.6

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.0

3 設計上の配慮事項	
<p>総合</p> <p>外皮性能を高め、高効率な設備機器の導入により環境負荷の低減を図るとともに、ライフサイクルCO₂排出量の低減に努めた。</p> <p>これはCASBEE静岡(2016年版)による評価結果です。</p>	<p>その他</p> <p>特になし</p>
<p>Q1 室内環境</p> <p>スタッフルームは十分な光が得られる環境とし、事務室内照度を確保。</p> <p>光・視環境に配慮。館内禁煙やF☆☆☆☆の建材を採用し空気質環境にも配慮した。</p>	<p>Q2 サービス性能</p> <p>維持管理をしやすく、更新間隔の比較的に長い内装材を計画した。</p> <p>壁長さ比率を抑え、設備・空間のプランニングの自由度を高めた。</p>
<p>LR1 エネルギー</p> <p>省エネ性能の高い設備機器を採用し、外皮の断熱性能にも配慮した。</p> <p>照明器具は全てLED器具を採用した。</p>	<p>LR2 資源・マテリアル</p> <p>手洗い器に自動水栓、トイレに省水型機器を採用した。</p> <p>躯体と仕上材が容易に分別可能な建材を採用した。</p>
	<p>Q3 室外環境(敷地内)</p> <p>特になし</p>
	<p>LR3 敷地外環境</p> <p>LCCO₂排出率87%</p> <p>適切な量の駐車スペースを確保した。</p>

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される